がんサポ通信

第50号 令和5年8月17日発行 緩和ケア委員会

令和5年度 第1回

地域連携緩和ケア協議会(意見交換会)



地域連携緩和ケア協議会は地区医師会、薬剤師会、医療機関、介護保険施設等の関係者が意見交換や情報共有 を図り、連携した緩和ケアの提供を構築することを目的に開催しています。

4月に開催した令和5年度第1回 地域連携緩和ケア協議会(意見交換会)では、「高齢者の在宅看取りが、緩和 ケアまで行ける事例が少なく、入院での看取り例が多い。老健、特養以外で看取りができる施設が少ない。」 「施設では医療依存度の高い利用者が多く、日常生活に関わるケアの偏りや職員負担増が懸念される。」など



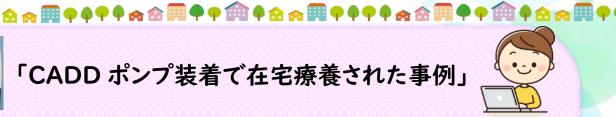
の議題が出された。庄内保健所の蘆野所長より、「全国的な課題であり、様々 な要因がある。地域独自の課題もあるが在宅医療部会で整理し、取り組んで いく流れを考えている。一度で解決できる問題ではないが将来的には解決して いく必要があるため、できるところから対応していきたい。」と意見があった。 地域包括ケアシステムを推進していくなか、地域全体の問題として捉え、 人々が安心して過ごせるように地域支援者と連携し、緩和ケアを提供していく 必要があると改めて考える機会となりました。



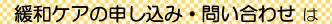




「CADD ポンプ装着で在宅療養された事例」



症例検討会では、地域連携緩和ケア協議会会員と症例に関与した医療機関等を招き、「CADDポンプ装着 で在宅療養された事例」に対し、当院のがん診療サポートチーム介入のきっかけや介入支援状況、入退院支 援センターの支援状況について報告。事例内容を共有したうえで、①在宅移行後、対応に困った点や要望に ついて ②ご本人・ご家族との関りについて ③在宅療養していくうえでの課題や検討したいこと等について、 具体的な検討を行いました。訪問看護ステーションからは、「CADD ポンプ使用での在宅療養介入は少なか ったが、カセット交換時は2人訪問とし、チェックリスト作成でダブルチェックしていた。」「退院時より情報共有 することで在宅主治医と連携を密にスムーズに行えた。」「ご本人・ご家族にとって大切な時間を過ごすこと ができた。」と報告があった。また、他の訪問看護ステーションからは「CADD ポンプ使用経験のある薬局と 連携して行っている。」との報告もあり、在宅療養支援での連携に関する情報共有が行われた。今後も CADD ポンプ使用下での在宅療養は増えていくことが考えられ、地域の多職種と連携して進めていくことで 意思統一できる機会となりました。



緩和ケアリンクナース または、緩和ケアセンター(内線 3880)ま

